



TITLE:

天文同好會總會記事

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天文同好會總會記事. 天界 1929, 10(105): 74-74

ISSUE DATE:

1929-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161485>

RIGHT:

## 天文同好會總會記事

本年度總會は豫定の通り十月二十日の日曜日午後、花山新天文臺にて開催。此日は朝から快晴で、午前中は一般人士の參觀で賑つたが、晝近くなる頃から同好會員は續々花山道路を登つて來られ、休憩室も一杯になる程であつた。

開會、竹田幹事の辭について

山本先生の「太陽研究の近狀」

百濟先生の「天體の週期軌道に就て」

の講演があつた。講演に續いて協議會に入つた。先づ山本會長より會の現狀に就て一通りの報告があり、觀測部のプレテンを大學に移した事に就て了解を得、會計係からは會計狀態に就て説明があつた。次に山本會長は一つの重大な案を提出された。これは豫て幹部の間で考へられて居た會の組織變更の問題である。抑も同好會は現在の社會一般の天文好きにかなり適した會と考へられるが、將來の天文學の進歩、會の發展を考へれば、此際是非まこまつた計畫を立てなければならない。それで今回我が同好會の仕事の中から純粹な研究の方面と天文趣味の方面とを分けることを好い策とすると主張されるのである。

これに就ては、案の趣旨が徹底しなかつたが爲か、重大な案だけに、根本的な意見を述べられる方も少く、實行上、俄に實現出來難い様に考へられ、天界の内容をもつと程度を下けて、通俗天文講話風のものを連載しては、と言ふ案も出たが、編輯者の御意見としては、雑誌は教科書の斷片でなく、其時の學術界の有様や天文現象を主にしたいとの事である。又會員の會誌と言ふ感じを深くする爲め會員の投稿を多くする様にこの希望もあり、又、文字を読むより寫眞を見る方が感じが深いから寫眞を増してはと言ふ説も出た。結局案としては何もまこまつたものは無かつたけれども、御互に平生の意見を開陳せられた爲、會員の要求も分り、將來の方針に參考となる事多大であつた。

次いで晚餐會に移つた。出席者は四十人で盛會であつた。晚餐會の終る頃は天體觀測に都合のよい時間であつたが、生憎暗雲がはびこつて、時々雨が來る始末なので觀測は中止して散會した。